

実践報告 英語の授業での映画利用法 (その3)

堀内 ちとせ

<目的>

英語が専門でなく、それほど得意でもない学生に対して、英語の授業の中で英語の映画を用いることによって、英語への感心を高め、少しでも学習意欲の向上を図る。

<対象学生>

藤田保健衛生大学 衛生学部 衛生技術学科 1年 120名 (2000年度)

<授業を始める前に> (授業で用いる練習問題作り)

- ①映画「ユー・ガット・メール」(日本語字幕付き)を5分ぐらいの長さに区切り、22のパートを作る。
- ②区切ったそれぞれのパートから、比較的短めで覚えておくと日常的に便利そうな表現(主に1文)を3つずつ選び出す。
- ③選び出した表現それぞれについて、きっかけになる直前の発話、その表現を構成している単語(特に聞き取ってほしい主なものを中心に)の最初のアルファベット、音声的補助記号etc.を与えたヒント・シート(資料1参照)を作る。

資料1<ヒント・シート例>

Scotch tape? (きっかけとなる直前の発話)

Wh () is g_____o_____w_____you? / N_____ ().

「●」: 音節 (強勢の置かれる音節は「●」で表す)

() : 弱めに発音される子音

∪ : 音のつながり

↗ : イントネーション (上昇)

- ④聞き取らせる表現およびその表現に関連した他の表現、穴埋め問題、さらにその問題の解答を載せた音声的補助記号付き正解シート(資料2参照)を作る。

資料2<正解例>

● ● ● ● ● ● ● ●
Wha(t) is going ∪ on with ∪ you? / Nothin(g).

<他の表現の例>

● ● ● ● ● ● ● ●
What's the matter with ∪ you?

● ● ● ● ● ● ● ●
What's wron(g) with ∪ you?

<穴埋め問題&解答例>

“How's your aunt?”を聞かせた後にお兄さんお元気?

() () () ?

(ここまでを提示して穴埋めをさせ答えを言わせた後、以下を提示する)

● ● ● ● ● ● ● ●
How's ∪ your brother?

- ⑤日本語字幕入りで選び出した表現を7回ずつ録画したもの（聞き取り用）と、英語字幕入りでできるだけその表現のみを2回録画したもの（復習用）の2種類の編集ビデオ・テープを作る。復習用では、表現を流した後にその表現を英語字幕を出したまま2秒固定した部分をもうける。

<授業の進め方>（英語の映画を使った部分のみ）

- ①聞き取る表現の日本語提示：授業が始まる前に聞き取る予定の表現全ての日本語訳（できるだけ意識を避けたもの）をホワイト・ボードに書いておく。
- ②パートの視聴：チャイムが鳴り終わると同時に、ホワイト・ボードに書いてあるその日の表現に注意させながら、その日のパート（日本語字幕つき）を視聴させる。
- ③前回の表現の復習：その日のパートを見終わってから、前回の表現をそれぞれ英語字幕付きで2回流す。ビデオ・テープの方は、1回流れるごとにその表現が英語字幕つきで2秒間固定されている。
- ④聞き取る表現の予測：ホワイト・ボードに書かれているその日の表現の日本語訳をもとに、英語を推測させる。文にならない場合は、使われていると思われる単語だけでも推測させる。
- ⑤表現の聞き取り
 - (1) ヒントなしで3回：聞き取る表現が出てきている状況、きっかけ、意味内容etc.を簡単に説明した後、ヒント・シートなしで3回映画音声を聞かせる。その時、何か拾えた単語があればメモさせる。
 - (2) ヒントありで3・4回：資料提示装置でヒント・シートを提示した後、さらに映画音声を3回聞かせる。ここで、学生を当てて答えが十分出ない場合は、日本人教員が少しゆっくり発音して聞かせる。
- ⑥解答確認：学生に答えを言わせた後、資料提示装置で聞き取らせた表現を提示しながら、その表現の日本語内容、どのような場合に使われる表現なのか等を言って聞かせる。その後、もう1回その表現の映画音声を聞かせる。最後に日本人教員の後について1・2回発音練習させる。
- ⑦他の表現の紹介あるいは穴埋め練習：聞き取った表現に関連した他の表現を1・2つ紹介（資料2参照）する。あるいは、関連した穴埋め問題をさせて答えを言わせた後、資料提示装置で正解を提示（資料2参照）する。その後、他の表現、あるいは穴埋め問題の正解を日本人教員の後について1・2回発音練習させる。

以上④～⑦までを3回（聞き取る表現の数）繰り返す。

<今回の試みに対する反省>（学生へのアンケートをもとに）

①パート視聴前の日本語訳提示について

パート視聴前に聞き取る表現の日本語訳をあらかじめ与えておいたことについて、前回は今回も90%近くの多くの学生が「意識して見た」（90%，89%）および「必要」（86%，88%）と答えている。「字幕と違うから」なくてもいいとか、「意識しすぎて他のことが聞き取れない」との意見も中には見られるが、多くの学生が「意識して聞ける」とコメントしている。今後も最初に日本語訳を示す価値はありそうである。

<パート視聴前の日本語訳>

	前回	今回		前回	今回
意識して見た	90%	89%	必要	86%	88%
意識しては見なかった	5%	1%	不必要	4%	3%
分からない	5%	12%	分からない	10%	9%

②前回聞き取った表現のリポートについて

前回の試みのときに6回リポートしてみたところ、過半数を切る学生(43%)からしか「必要」という意見を得られなかったため、今回は思い切って2回に減らしてみた。しかも、英語字幕の出るビデオ・テープも入手できたため、前回聞き取った表現を英語字幕付きで流した後、その英語字幕を2秒ほど出したまま停止させてもみた。その結果、過半数を超える学生(67%)から「必要」との答えを得た。

ただし、英字字幕の停止秒数については、多少「短い」としている学生(19%)も目立っているようである。もう少し長めに停止させてみるのも良いかもしれない。また、英字字幕を出したことについては、画質が多少悪かったことはさておき、「目で見て確認できる」価値を認めている学生(70%)が多く見られた。大文字ばかりでこそあるが、最近の映画は英語字幕が出せるものも多いため、できるだけそのような作品を選んで使ってやる必要もありそうである。

<英字字幕の停止秒数(2秒)>

	(今回のみ)
長い	2%
ちょうど良い	51%
短い	19%
分からない	28%

<前回聞き取った表現のリポート>

	前回(6回)	今回(2回)
必要	43%	67%
不必要	32%	7%
分からない	25%	26%

<前回の表現の英語字幕>

	(今回のみ)
必要	70%
不必要	4%
分からない	26%

<前回の表現のリポート回数(2回)>

	(今回のみ)
多い	5%
ちょうど良い	80%
少ない	4%
分からない	11%

③ひとつのパートの長さおよび1回に聞き取る表現について

今回は思い切ってひとつのパートの長さを5分にしてみたところ、意外にもちょうど良いと答える学生の数が微妙に増えた(56%→63%)。何分にしても「短い」と答える学生の数はそれほどの違いを見せない(33%, 40%, 33%)なら、逆にここまで短くしてしまっても良いと言えるかもしれない。

また、1回に聞き取る表現については、「5つ」の時(66%)ほどではないが、「ちょうど良い」と答える学生の数が減り(92%→86%)、「少ない」と答えている学生が多少増えている(2%→6%)。しかし、それほど大きな違いはないため、「3つ」「4つ」あたりが適当な数と考えて良いだろう。

<ひとつのパートの長さ>

	(10分・前々回)	(15分・前回)	(5分・今回)
長い	3%	1%	1%
ちょうど良い	57%	56%	63%
短い	33%	40%	33%
分からない	7%	3%	3%

<1回に聞き取る表現の数>

	(5つ・前々回)	(4つ・前回)	(3つ・今回)
多い	27%	2%	3%
ちょうど良い	66%	92%	86%
少ない	2%	2%	6%
分からない	5%	4%	5%

④聞き取る前の表現の推測について

今回はどういう訳か試みた学生こそ前回よりも減っている(67%→50%)のだが、「必要」と答えている学生はほぼ同じぐらい(42%, 44%)見られた。必ずしも全員が試みなくてもいいかもしれないが、「自分で考えると印象に残りやすい」というコメントしている学生もいるため、そう言う学生だけでも引き続き行っていく必要はあるようである。

<聞き取り前の表現の推測>

	(前回)	(今回)		(前回)	(今回)
試みた	67%	50%	必要	42%	44%
試みなかった	28%	40%	不必要	12%	8%
忘れた	5%	20%	分からない	46%	48%

⑤ヒント・シートにおける音声的補助記号について

今回も前回に引き続き積極的に音声的補助記号の説明を行ったところ、ほぼ前回と同じぐらいの学生(53%, 54%, 63%/60%, 54%)から「必要」という答えを得た。ただ、「強勢の置かれる音節のマーク(資料1参照)の大小が見づらい」というコメントもあり、もっと記号を見やすくする必要はありそうである。

<単語間の音のつながりと弱めの子音の表示>

	(前々回)	(前回)	(今回)
必要	53%	54%	63%
不必要	20%	11%	19%
分からない	27%	35%	18%

<音節・強勢の置かれる音節の表示>

	(前回)	(今回)
必要	60%	54%
不必要	13%	18%
分からない	27%	28%

⑥正解シートにおける音声的補助記号について

正解についても記号の説明を積極的に行った結果、ほぼ同数の学生(61%, 72%, 69%/69%, 66%)が「必要」と答えるに至った。そして、ヒント・シートと正解シートを比べてみると、やはり正解シートでの記号の方を必要としている学生が、多少ではあるが多い(63%<69%/54%<66%)ようである。ただ、正解シートに関しても、「(記号が)見づらい」とコメントしている学生が見られるため、記号はできるだけ見やすくスッキリと表示する必要

があると言える。

〈単語間の音のつながりと弱めの子音の表示〉				〈音節・強勢の置かれる音節の表示〉			
	(前々回)	(前回)	(今回)		(前回)	(今回)	
必要	61%	72%	69%	必要	69%	66%	
不必要	12%	6%	16%	不必要	11%	15%	
分からない	27%	22%	15%	分からない	20%	19%	

〈単語間の音のつながりと弱めの子音の表示〉				〈音節・強勢の置かれる音節の表示〉			
	(ヒント)	(正解)		(ヒント)	(正解)		
必要	63%	69%	必要	54%	66%		
不必要	19%	16%	不必要	18%	15%		
分からない	18%	15%	分からない	28%	19%		

⑦他の表現の紹介および穴埋め練習について

今回は主に他の表現の紹介(資料2参照)を行い、表現によっては穴埋め練習(資料2参照)という形で行ってみた。その結果、前回と比べると他の表現の紹介を「必要」とする学生がかなりの増加(47%→88%)を見せた。穴埋め練習については前回とほぼ同じくらいの学生(71%, 68%)から「必要」との答えを得たのだが、やはり前回と同様に「問題が簡単すぎ」というコメントも見られた。同じ表現であっても、学生の口でもう一度言わせることに意味があると思って行ったのだが、やはりもう少し問題に工夫の余地があるようである。

〈他の表現の紹介〉			〈穴埋め練習〉		
	(前々回)	(今回)		(前回)	(今回)
必要	47%	88%	必要	71%	68%
不必要	16%	3%	不必要	13%	8%
分からない	37%	9%	分からない	16%	24%

⑧発音練習について

今回も前回と同様、多くの学生(88%, 82%/75%, 75%)が発音練習の価値は認めているようである。しかし、今回の1・2回の発音練習について「1回でいい」とコメントしている学生が何人か見られた。学生がきちんと発音練習できる状態にある(ノートなどを取り終わって)ことだけしっかり確認できれば、発音自体は1回するだけでも良いと考えることもできるかもしれない。

〈聞き取った表現の発音練習〉			〈穴埋め問題の答えの発音練習〉		
	(前回)	(今回)		(前回)	(今回)
必要	88%	82%	必要	75%	75%
不必要	2%	6%	不必要	9%	6%
分からない	10%	13%	分からない	16%	19%

<学生自身の変化について> (学生へのアンケートをもとに)

今回のアンケートは、英語の映画を授業で使い始めてからちょうど半年ぐらい経ったところ(前々回、前回は1年経過後)で行い、しかも今回の試みでは、最初の1ヶ月ほどは事情で自習にせざるを得なかったところが、前回および前々回と大きく異なっているところである。その結果、英語の音声に「慣れてきた」と答えている学生(36%>15%)、英語に耳を傾けようという気持ちが「強まった」と言う学生(48%>28%)、そして実際に英語に耳を傾ける機会が「増えた」と言う学生(47%>17%)に、大幅な減少が見られた。また、英語の映画を見る機会(44%>13%)や映画で英語を勉強してみようという気持ち(40%>23%)、さらに英語に対する気持ち(18%>9%)などにも、あまり良い結果が得られなかった。

しかし、ここでは敢えて、それでも15%もの学生が英語の音声に「慣れてきた」と答えているところ、28%もの学生が英語に耳を傾けようという気持ちが「強まった」と答えているところに注目したい。また、英語を聞くこと自体が「好きになった」としている学生が3分の1近くもいる(28%)ところも注目に値するのではないか。

中には「映画は楽しむもの」で「映画で勉強したいとは思わない」とコメントしている学生もいる。しかし実際、過半数以上の学生が英語の映画が「好き」(63%)あるいは「好きになった」(13%)と答えており、27%もの学生が実際に映画を使った英語の勉強を「実行した」としている。「映画で英語を勉強する」と言うと、少し大げさに聞こえてしまうかもしれないが、「今、英語では何と言ったんだろう」と映画の英語に少しでも耳を傾けること自体、英語の勉強だと言ってもいいのではないだろうか。ここでは、そういったことを試みた学生の数のことを言っている。

<英語の音声>

	(前々回)	(前回)	(今回)
慣れてきた	41%	36%	15%
元々聞くのは得意	4%	9%	13%
元々聞くのは苦手	26%	28%	53%
分からない	29%	27%	19%

<英語を聞くこと>

	(今回のみ)
好きになった	28%
元々聞くのは好き	31%
元々聞くのは嫌い	23%
分からない	18%

<英語に耳を傾けようという気持ち>

	(前々回)	(前回)	(今回)
強まった	48%	48%	28%
元々ある	22%	31%	38%
元々ない	8%	8%	14%
弱まった	2%	0%	2%
分からない	20%	13%	18%

<英語に耳を傾ける機会>

	(前々回)	(前回)	(今回)
増えた	16%	47%	17%
元々ある	29%	19%	28%
元々ない	29%	18%	33%
減った	1%	6%	5%
分からない	25%	10%	18%

<英語の映画を見る機会>

	(前々回)	(前回)	(今回)
増えた	22%	44%	13%
元々ある	39%	28%	33%
元々ない	25%	9%	33%
減った	1%	12%	13%
分からない	13%	7%	8%

<英語の映画>

	(今回のみ)
好きになった	13%
元々好き	63%
元々嫌い	15%
嫌いになった	0%
分からない	9%

<映画で英語を勉強してみようという気持ち>			<映画で英語の勉強>	
	(前回)	(今回)		(今回のみ)
出てきた	40%	23%	実行した	27%
元々ある	21%	20%	実行していない	73%
元々ない	21%	34%		
減った	1%	1%		
分からない	17%	23%		
<英語に対する気持ち>			<英語を勉強しようという気持ち>	
	(前回)	(今回)		(今回のみ)
好きになった	18%	9%	強まった	15%
元々好き	34%	29%	元々ある	39%
元々嫌い	19%	38%	元々ない	27%
嫌いになった	1%	3%	減った	0%
分からない	28%	20%	分からない	19%

<終わりに>

「どうしたら少しでも英語ができるようになるか」と考えた場合、やはり少しずつでもコンスタントに英語に触れていくことが、その第1歩だと言えるのではないだろうか。“Practice is perfect.”という言葉が示しているように、英語はちょっとやそつとで身に付くものではない。日々の積み重ねが大切なのである。

それでは、毎日無理なく英語に触れるにはどうしたらいいのだろうか。言うまでもなく、英語は苦手と言いつつも、過半数以上(13%+63%)の学生が「好き」だと言っている (<学生自身の変化について>の<英語の映画>参照) 英語の映画を用いることは、持ってこいの手段だと言える。

では、どうしたら英語の映画を見る際に、学生の意識を日本語字幕ばかりではなく、少しでも英語の方に持ってこさせることができるだろうか。それには、英語の授業で英語の映画を使ってやるなどして、その「きっかけ作り」をしてやる必要がある。それは今回の試みが示すように、わずかの期間であってもそれなりに意味のあることである。半年足らずの短い試みでこそあったが、確かに学生の英語に対する前向きな姿勢を、わずかながらも伸ばすことに成功している (<学生自身の変化について>参照)。

英語の映画を使った授業がきっかけで、少しでも多くの学生の英語の苦手意識が和らぎ、少しずつでも自ら英語に触れられるような方向へと向かっていってくれればと、願って止まない。